

「手延の各種めん」と出会って今年で42年に成ろうとしております。

長寿食材を求めて旅は今年で40年目に成り、麵に関してのご相談もお気軽にご連絡ください。



ローマ法王



世界初のカップそうめん



島原手延そうめん



新酒の香りに誘われて
百年蔵の雛飾り



永山久夫さん



法王に献上した特殊麺

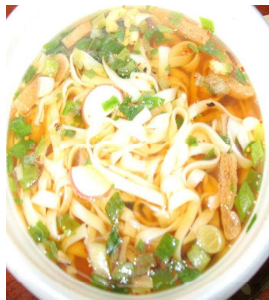
日本で最初に銅版画印刷が行われ400年前の銅版画が復刻献上され、私の開発した特殊麺も共に法王に献上しました。古くは重税に堪え忍び、農家の副業ととして取り組んできた手延そうめんも、350の工場があり、地球上最大の手延の産地を形成しており、その歴史は400年に成ろうとしております。さらに開発したお湯を注ぐだけで3分で食される「即席カップ有家そうめん」は、海の記念日に行幸行啓産品として天皇皇后両陛下にお渡しいたしました。

これは何事にも通じるのですが、わたしの美味しさの手法です。「麺の良さは、麺を見なくても作業の終わった工場を見ればいいのです。できれば製造責任者と数分話すことができれば、さらにいいのです。そして、その麺を食べたりすることは、自分の美味しさの尺度を確認するため」だと思っています。

さて、「村おこし」は商工会が独自に取り組み国と県が協力して昭和60年10月5日から「第1回九州村おこし物産展」としてが別府市の的ヶ浜公園で開催されました。それが各地に広がり毎年、池袋のサンシャインシティで開催される「ニッポン全国むらおこし展」となり日本最大の物産展に成っております。私は「村おこし」に取り組み、次に「技おこし」で即席カップそうめんをはじめ7種を自ら開発しました。そして「まちおこし」へと進めてきており、ここに3つの「おこし」に完成させ、事業の集大成にしようと考えていました。

そして、平成15年より地元商店の立地的ハンディの克服策として、各店の独自性及び専門性及び話題性を強化し、大型店舗から各店への回遊性を高めるために「まちおこし事業」に取り組むことにしました。南島原市有家町は、島原半島の南部の中心的役割を果たし古くより庄屋の町として栄え、酒蔵所や味噌醤油をはじめとした醸造蔵、手延素麺製造施設や史跡など歴史的資産が至る所に眠っており国道251号線沿いにロードサイド型店舗が林立しており旧商店街地区に一步踏み込むと地元の長い歴史と伝統で培われた「蔵の文化と生活」に触れられます。

そこで、歴史の中から産業遺産（百年蔵）を表舞台に引き出し、地域全体の財産を点から線へ有効活用して、それらの延長線上に商店を配置することで、地域商業全体の活性化はもちろんのこと、商店と商店の自主的連携と一体感の中での販売促進を図って行くため、「一店逸品蔵巡り事業」に取り組み、逸品を開発してスタートさせました。五つの蔵に交流拠点及び情報発信基地としての機能を持たせることにより、各店の逸品・各種イベント等の紹介など、個店の魅力を伝え、回遊散策される方々の「ふれ愛広場」や「ふれ愛ロード」として皆様に親しんでいただけるものと確信して進めてまいり、今では多くの方々に楽しんでいただいております。

	また、東京池袋のサンシャインシティコンベンションホールにて試験販売を開始した「<u>有家そうめん</u>」は、世界を周り素材にこだわり、食べる方を思い描き、心を込め製造している商品で、国内外の著名な方々にも献上しております。手延素麺の取材でNHK関係者との出会いがあり、南米ペルー訪問の取材で<u>45分間（3番組）に渡り紹介</u>していただきました。海外では、生物遺伝資源自然免疫プロジェクト（癌研究）博士、雑誌記者、時計設計人、温泉王、めん店経営者にも会えました。 元NHKの鈴木健二さんに熊本県牛深の小さなホテルで偶然出合いました。ホテル内は酔った二人だけだったのでお話をすることがあり『<u>自分の自由時間と労力をいかに郷土（地域）に提供し、頭と心を寄せ合う努力を今こそ先行させなければならない。地域づくりも汗の中から生まれるから。希望を持ち、自分の気持ちを、まず隣人に話し理解を求めることにより始める事です</u>』と記憶しています。 近年、ペルーなど食材を集めての旅、インカピンクロマン岩塩との出会い。スウェーデン議会に案内され出席した、ストックホルム市庁舎のブルーホールでの晩餐会への出席。ひょうたんの栽培加工の障害者への指導。南島原市450周年記念、天正遣欧少年使節の即席を辿る旅に同行など多くの出会いがありました。 そのかたわら、その人の立場に立って何が最善であるかより始めることで、さらに寄与できるものと信じ、人生の自由時間の中で奉仕活動に精一杯取り組んでいます。 まず隣人へそして隣人から隣人へと広め、理解していただく地道な活動こそ大切と考え、<u>今日も地域を見つめながら歩き、そして、これからも地域と共に歩き続けようと思っております</u>ので、めんに関する情報などいただければ幸いに存じます。 また、麺に関してのご相談もお気軽にご連絡ください。 ありがとうございました。			
山本華世さん				
				
元 NHK 鈴木健二さん				
				
インカの子孫の民家訪問				
				
インカピンク岩塩				
				
ストックホルム市庁舎				
				
ローマ法王に謁見				
				
カステルガンドルフォ城	 乾燥風景	 青の間	 六瓢息災 (無病息災)	 即席手延うどんの試験販売